

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

京都観世会二月例会

平成31年2月24日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



弱法師 〈能〉

味方 玄

二九十八 〈狂言〉

茂山千三郎

源氏供養 〈能〉

杉浦豊彦

烏帽子折 〈能〉

大江信行

主催 公益社団法人 京都観世会

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

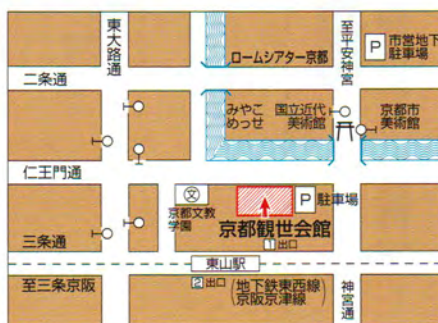
お問合せ・お申込み ☎ 075-771-6114

WEBサイトの公演情報からご予約ができます <http://www.kyoto-kanze.jp>

チケットぴあでのご購入ができます Pコード: 490-629

前売券 (1階当日指定席) 6,000円
当日券 (1階当日指定席) 6,500円
学生券 (2階自由席) 3,000円

京都観世会館案内図



◆京都観世会館へは
JR京都駅から—
市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)
地下鉄丸太町線「烏丸御池駅」で東西線乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
阪急河原町駅から—
市バス[31][46][201][202][203][206]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
京阪三条駅から—
市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約1分)
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
JR京都駅から—
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
山科・醍醐方面から—
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
地下鉄東西線「東山駅」から—
徒歩約5分

◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

京都観世会二月例会

後見・地謡

河内国高安の里の高安通俊は、人の讒言を信じてわが子を追放してしまった。そのわが子を不憫に思い、二世安楽を祈るため、通俊は天王寺で七日間の施行を行う。今日はその満願の日。そこへ一人の盲目の青年、弱法師がやってくる。通俊の施行を受けるそのとき、梅の花が弱法師の袖を散りかかり、弱法師は梅花も仏の慈悲と感謝する。そして天王寺縁起を曲舞に語る。通俊は弱法師がわが子俊徳丸であることに気づく。人目をばばかり、夜になってから名乗ろうと、通俊は日想観(西)に向かい日没を見て極楽浄土を觀想することをすすめる。弱法師は入り日を見、またかつて見慣れた難波の景色を心の眼で見渡す。しかし盲目ゆえのつらさ、恥ずかしさをも垣間見せる。やがて夜も更け人も静まると、通俊は名を明かし、俊徳丸を伴い高安の里へと帰るのだった。

二九十八

男 茂山千三郎 夢想妻松本 薫

休憩二十分

源氏供養

里女 杉浦豊彦 從僧 大坪賢明
紫式部 江崎欽次朗
舞入 從僧 和田英基

休憩十五分

白楽天 牧野和夫
笹之段 浦部好弘
須磨源氏 武田邦弘

烏帽子折

若者頭 田茂井廣道 大鼓 石井保彦
立衆 大江広祐 小鼓 林 大和
梅田嘉宏 太鼓前川 光範
浦田親良 首 大野 誠
味方團 河村和貴
大江泰正 樹下千慧

附祝言

亭主 網谷正美
早打 井口竜也
盗人甲 茂山千之丞
盗人乙 島田洋海
盗人丙 茂山あきら

(終了予定 四時半頃)

後見・地謡

片山伸吾 河村晴道
橋本雅夫 古橋正邦
浦田親良 武田邦弘
樹下千慧 河村博重
大江広祐

後見 鈴木 実

林 宗一郎 河村浩太郎 河村晴久
井上裕久 橋本忠樹 浦田保浩
松野浩行 大江又三郎
浅井通昭 越賀隆之

浦部幸裕 塚本和雄
橋本磯道 橋本擴三郎

橋本光史 河村和晃 吉浪壽晃
片山九郎右衛門 深野貴彦 河村和重
吉田篤史 青木道喜
分林道治 浦田保親

解説

弱法師

源氏供養 舞入

安居院法印が近江国石山寺に詣でる。一人の女が法印に声をかけ、「私は石山で源氏六十帖を書きました。源氏に供養をしなければならぬに成りて下さいます。どうか源氏供養をしてください」といふ。法印が承諾すると、女が「そのときは私も現れて共に法印が『そいうあなたも源氏供養でね』というや、女は名乗らずに姿を消す。」

法印は石山寺にて源氏物語、そして紫式部を申す。すると先の言葉通り、紫式部が現れ、申す。『布施に何か』という、法印は舞を所望する。式部はなおも恥じらいながら紫句う袂を翻し舞を舞う。やがて法印の源氏供養に、世の無常を述べ、また弥陀の来迎を得ての極楽往生を願う。式部も舞の袖を翻す。しかし、よくよく思えば紫式部とは石山の観世音菩薩が仮にこの世に現れた姿で、源氏物語というのにも「この世は夢の世」と人々に知らせるためのご方便であった、と能は結ばれる。

烏帽子折

鞍馬山を出た牛若丸は、三條吉次、吉六兄弟の東下りに同行を頼み、鏡宿に着く。追手が掛かったことを知った牛若丸は、元服して姿を変え、烏帽子折を訪ねる。そして源氏のしるしである左折の烏帽子を所望し、代わりに小刀を渡す。烏帽子折の妻はこれを見て涙を流す。小細を聞くと、妻は源義朝に仕えた鎌田兵衛正清の妹阿古屋前で、牛若誕生折に、この守り刀を義朝より牛若のもとへ届けたいという。そして主従は名乗り合う。明けて旅立ち赤坂に着いた吉次一行は、熊坂の夜討の情報を得、牛若を頼みに待ち受ける。熊坂は多勢で押し入るが、全て牛若に討ち取られ、熊坂自身も終に切られる。

お客様へお願い

- ◆特別会員席以外の座席券は、当日午前10時から先着順にお引換えいたします。
- ◆開演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆予告なく出演者等に変更がある場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の節は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

【表紙写真】

(源氏供養) 杉浦豊彦

ウシマド写真工房撮影

次回予告

京都観世会三月例会

平成31年3月24日(日)

午前11時開演

(能) 忠度

吉浪 壽晃

(狂言) 昆布売

忠一郎改メ 善竹 彌五郎

(能) 胡蝶

河村 博重

(能) 善知鳥

浦田 保親